

新研究テーマの紹介

中大口径管における簡易な調査技術 (スクリーニング調査技術)に関する研究

研究第二部 研究員
清棲 拓馬



1 研究の背景

全国の自治体において、常時高水位・高流速のために点検・調査等ができず、管きょ内の劣化状況の把握や改築更新に向けた緊急度判定が困難な中大口径管が多く存在します。これらの管きょは、当該地区の下水道システムにおいて重要な役割を持つことが多く、老朽化の進行により施設機能が失われると、市民生活に多大な影響を及ぼすため、点検・簡易調査により現況の管きょの状態を早期に把握することが重要です。

2 研究の目的

本研究は、常時高水位・高流速な中大口径管を対象としたスクリーニングレベルの簡易調査技術として、全国の地方公共団体に広く活用いただける浮体式カメラを開発することを目的としています。浮体式カメラの製作において、安価で簡易に製作可能な材料を選定し、加工・組み立て方法を整理し、φ600mm蓋へ投入可能、軽量小型、運搬容易、加工容易な浮体形状を検討します。

3 研究体制

3.1 研究体制

下水道機構による自主研究

3.2 研究期間

令和7年3月～令和8年3月

4 研究内容

調査機器の製作・改良（浮体式調査機器、自動巻取機）、および地方公共団体協力による管路内調査の実証実験、実証実験結果の整理（調査機器の下水道管路における調査可能な水深、流速、管径、延長等の適用範囲）について研究を実施します。